

授業づくり部会

実践1
ICTを効果的に使い、協働的な学びの中で考えを広げ、深める授業づくり



金剛学習スタイル

学校全体で共通理解をし、授業づくりを進めた。

金剛っ子の授業スタイル「こやし」について

【金剛っ子の授業スタイル「こやし」】 沿住 本校の目標とする力のこやしとは違う「こ・心をこめて伝えあう力・や・せり抜く力・主体的に考動する力」
 *児童の「かわいじ」(知的好奇心や興味、関心等)が連続し、「これはどうかな」と主体的に考動を始める姿が生まれる単元デザインの工夫
 *「もやもや」(疑問や予想、問い合わせ)を「あってみよう」と力を合わせれば解決できた。育ちあう集団の中での心をこめて伝え合いながら、納得できたという授業展開の工夫

*やり抜き、「できた」「もっとやってみよう」(達成感やさらなる意欲等)が生まれ、「しっかり学べた」と感じる振り返りの充実

☆自分たちでめあてをたてる。
 ☆「今日は○○について知りたい！考えたい！」と意欲が高まる。
 ☆前時の振り返りから、もっと考えたいことが見つかる。

☆金剛っ子を考え比べる。
 ☆「わかった！」「なるほど」など納得できる考えにたどり着く。
 ☆今までの学習を基にして、解決する手段を探りながら、課題に取り組む。

☆ふり返りの中に学びに対する新しい気付きがある。
 ☆できなったこと、上手いかなったことが、できるようになる。
 ☆課題に対するべき手段、考え方を見つかる。

ふり返りの時間は十分に費とれるように時間配分を考える。

○基礎基本(四則計算・音読・述読・漢字・経験など)
 ○授業でつながる。
 -授業の継続を考えてみよう。
 -明日の授業に向けて考えをまとめておこう。
 -授業で取り組んだ問題をもう一度やってみよう。
 -前半で習ったことを忘れていたから復習しよう。
 -どうぞ

○自分の得意なこと、興味のあることについて、調べたり、まとめて、体験してみたり…

○ICTを使っての家庭学習も行う。

・ドリル学習・今日の復習・調べ学習

・授業の準備・

②これはどうかな？(問い合わせ)

③やってみよう。(学びの見通し・学び方)

④しっかり学べたかな？(振り返り)

花(将来の目標・なりたい自分)
 ーー一人で真似る。

キャラクター(アバター)で描いていく。

水(先生)
 教師のアシスタント
 今までの(キレイさ)、見えなさすぎ(手立てなし)に注意

葉(育てたい資質・能力)

芽(子供)

土(家庭・教室)
 肥やし(家庭でやること)

こ
や
し

肥やし
 主体的・目的的で深い学びの授業

根(家庭学習)
 根を深め、広げ、成長をめざす根を振り返り、より大きく育つ。そのためにはこやしこそ重要。

【児童が「問い合わせ」をもつ】

【児童が「意見」をもつ】

【児童が「学び方を知り深め合う】

【児童が振り返りで自分の学びを知る】

○学習課題を見通すことができる。
 (計画・めあて・ふりかえり等)

○より多くの考えに触れる(発信・受信)ことができる。

○自分の考えを相手にわかりやすく表現できる。

○6年間にわたって学びの跡を確認できる。

○新しい情報を得ることができます。

話す 伝え合う 学び合う 考えを比べる
 友だちと考え方を比べる

話す 伝え合う 学び合う 考えを比べる
 友だちと考え方を比べる</

疑問に思うこと、もっと調べてみたいこと、予想などを付箋を使って出し合い、学習課題を決めていく。

リサイズ 編集モード ページ一覧 学習問題をつくろう +16 補助教材 補助教材 + 山 口 エフェクト 配置

M+ - 32 + A B I U S aA ≡ ≡ T T | エフェクト | 配置 |

一つの画面で全員が共同作業をすることができる。

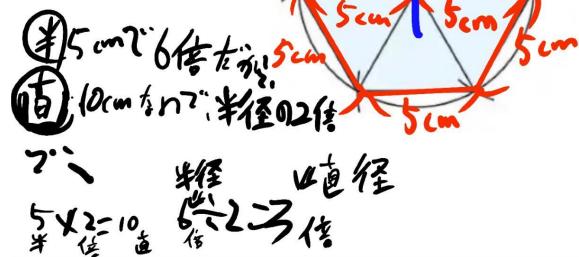
考えてみたいこと

学習問題を作ろう

予想したこと

6年社会科「全国統一への動き」課題づくり canva(ホワイトボード)クラスルーム

3倍



タブレットを使うことで図形を描いたりや書き込みをしたりすることが簡単に分かりやすくなります。

5年 算数科 スカイメニュー 発表ノート

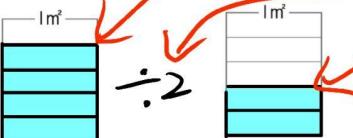
2dLで $\frac{4}{5}m^2$ ぬれるベンキがあります。
このベンキ 1dLでは何m²ぬれますか。

(関係図)



$$(式) \frac{4}{5} \div 2 = \frac{4 \div 2}{5} = \frac{2}{5}$$

2dL



共有する



他の児童の考え方を見ることで交流してみたい人のところに行って話をすることができる。

みんなは、どんな
かんさつのポイントに
ついて書いたのかな。

タブレットをこうやって
図して、みんなの考え
見てみよう！



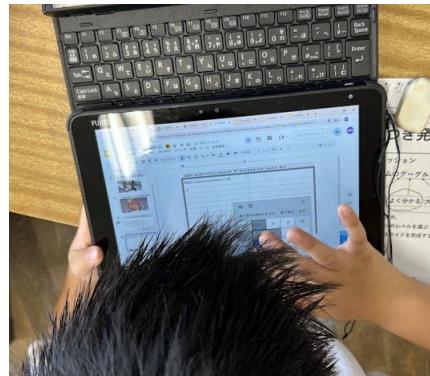
6年 算数科「場合を順序よく整理して」
スカイメニュー みんなの作品

2年 国語科「かんさつ名人になろう」
スカイメニュー 発表ノート

深める



3年 総合的な学習
「やつぎ発見プロジェクト」
クラスルーム グーグルスライド
スカイメニュー 発表ノート



友達が作成したスライドに対するアドバイスを行う。ICTを使うか付箋(紙)を使うかは児童が自分で選択する。



6年 国語科『考える』とは
canva(ワークシート) クラスルーム

Canvaアプリを使ったワークシートを児童に配付することで、それぞれの児童が自分のシートに書き込みをしたり、同時編集をしたりすることができる。困ったときには友達のワークシートを参照することができ、自分の考えを書き込むことが難しい児童も書き込みができるようになった。家庭学習で書き込みができるのも利点である。教師は児童の様子や気になる児童を同時に見取ることができ、修正、加筆することもできる。

つながる発信する

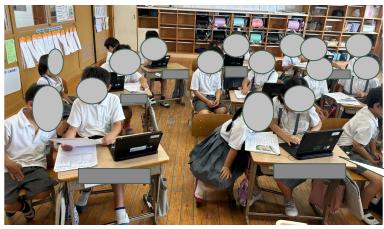


通学路で見つけたものを写真に撮り、友達に紹介する。

1年 生活「学校くるみち、かえるみち」
スカイメニュー 発表ノート



自分のことを友達に知ってもらうためのプレゼンテーション。写真があることで、より詳しく聞き手に伝わる。それを受け、聞き手が発表者にもっとしりたいことを質問をする。



相手意識(友達・家族)をはっきりともち、自分の考え・気付きをまとめて発表する。

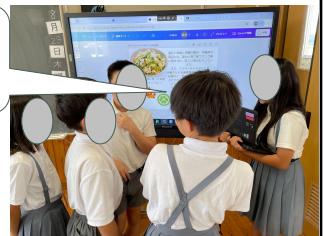
クラスや異学年の友達に

2年 国語「かんさつ名人になろう」
スカイメニュー 発表ノート

自分たちが育てた野菜を丁寧に観察し、撮りためていた写真をもとに、成長の様子を1年生に伝えることができた。

3年 国語「もっと知りたい、ともだちのこと」
スカイメニュー 発表ノート

沖縄について学んだことを共同編集し、別のグループにまとめたことを発表する。



5年 社会「自然条件と人々の暮らし」
Canva ワークシート

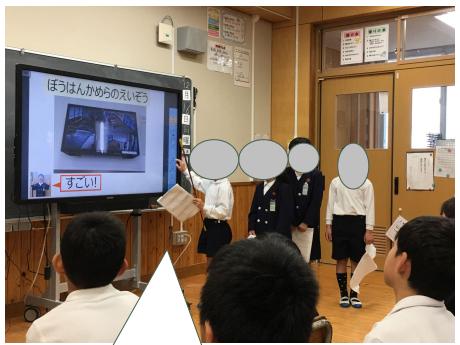


相手意識(友達・家族)をはっきりともち、自分の考え・気付きをまとめて発表する。

家族に

修学旅行で学んできたことをもとに、平和について考えたり調べたりしたこと家族に向けて発表した。

6年 総合的な学習 平和学習
スカイメニュー 発表ノート



校区探検の様子をタブレットでグループ共有し、まとめて発表した。

2年 生活 金剛のすてきを見つけた(町探検)
スカイメニュー 発表ノート

山江村の小学生との交流



山江村の子供たちと
交流前の学校紹介を
オンラインで行う。



欠席の児童へのオンライン授業



欠席した児童も一緒に授業の
様子を見ることができるオンライン授業を行う。

授業中に分から
ないことがある
と、メッセージで質
問を送ってくる。

しっかり学べたかな？

- ☆振り返りの中に学びに対する新しい気付きがある。
- ☆できなかったこと、上手くいかなかつたことが、できるようになる。
- ☆課題に対してとるべき手段、考え方を見つかる。

児童が達成感や更なる意欲をもつことのできる振り返りの充実

第2振り返り	第3振り返り
三人の考えは全く違ったけど書き方は同じということが分かりました。筆者が伝えたいことは「へた」と書いてあって分かりやすかったです。	筆者の考えは自分が思っていた所と違った物があったので次はもっと文を詳しく読んで読み取ろうと思いました。
三人ともちがう考えをしているけど三人とも最後は同じ考えをしている	三人の筆者の主張はいっしょの考えをしているけど世界をどう変えるかはちがう考えをしている。
清上さんと石黒さんと中渕さんの主張を読み取って考えることはひとによってちがうという事が分かった	私は、石黒さんが生かして書いていました。
3人とも筆者がいるのに全員かきかたがいっしょでビックリしました。	三人の筆者は、皆違うことを考え、書いていたけれど構成は似ていた。主張の内容は、考えることで〇〇が変わる 〇〇になる。というものが多い
主張は最初にあるイメージだったけど3にんとも最後に書いていて、最後にかけてある文もあると分かりました。構成がていた。	3人のたちは(考えること)は同じだけど、それぞれの3人の書いて文が似ていた。それぞれのがんがえを書いている。『○○のようすすれば』というように書いてあったのが少し多かった。

振り返りをスプレッドシートに毎時間書き込むことによって、学びの足跡を残すことができた。また、友達の振り返りも見ることができるので、学びのニュアンスの違いに気付いたり、書き方を参考にしたりすることができた。

作者が伝えたいことと
な書くことが少しづつ
はちがった。

6年国語科「『考える』とは」スプレッドシート

3人にとも考えるとはなには
が色々な考えがあるんだなと

それぞれ3人が伝えたい
『の文の中で、構成
かた。3人の伝えたい
かた。

案外伝えたいことの近
ではなく、別の段落に

文の構成がほとんど同じだったが伝えたいことは
ちがった。次回も引き続き文章を読み取っていく。
で

亦次分校3年総合的な学習の時間活動シート⑧		7月 15日			
2週間に集めたデータは?	スライドのある場所	今の気分	ふりかえり例	□に入れたい言葉は	
データが たりない、ない	https://docs.google.com/presentation/d/10eYxne		次は□口をします		□□ができた □□が分かった □□がわからなかった □□ができた □□ができなかった □□さんが□□と話していた □□さんの話を聞いて□□だと思った 次は□□します □□の勉強にしていると思う 協力して□□ができた
あまり わからない			□□ができる かった		
あまり わからない			□□ができる かった	データを作るの	

その時間に作成したスライドのある場所をリンクで貼っておくことで学習の足跡を残し、いつでも見ることができる。

とてもよくできた	聖徳太子は政治のためにいろいろなことしたことがわかりました。次は、その政治が変わるのがについてしゃべたいです。
とてもよくできた	もしも、聖徳太子が亡くなったら政治はどうなるだろうか
とてもよくできた	聖徳太子は、政治では法隆寺を中国の文化を広めるために作ったのが分かったので、次の時間に今の政治までどのように進んでいったのが知りたいです。
とてもよくできた	今日の社会で、聖徳太子のことや小野妹子さんで、中国に使われた言葉が大変なことになったという事が分かったら、小野妹子子が来て政治が発達してどのような問題ができるのかを次の時間に調べてみたいです。
できた	なんとなく聖徳太子が行ったことは、知つたけど、聖徳太子が大陸の文化を政治に生かしたのを初めて知りました。
できた	政治でこの時代にも憲法があることを知りました
とてもよくできた	聖徳太子がどのようなことを行ったのが分かった。次はその政治がずっと続していくのかを調べたい
とてもよくできた	

振り返り例をプルダウンにして振り返りシートに入れておくことで低学年でも振り返りが書きやすくなる。

3年総合的な学習「亦次プロジェクト」スプレッドシート

振り返りの中に「次の時間に勉強したいこと」「疑問に思ったこと」などを書くことで次の時間につなげる。

6年社会科「大陸に学んだ国づくり」スプレッドシート

実践2 振り返りの視点・発表の話形の提示

振り返りの視点(4・5・6年生)

きいたこと (先生や友達の話)		わたしは、○○さんの考え方と同じです。(ちがいます) 理由は、○○だからです。
わかったこと むずかしかったこと		分かったことは、○○です。 どうして分かったかというと○○からです。 むずかしかったことは、○○です。 つまずいた理由は、○○です。
見通し		次の学習では、○○をします。 新しい問いは、○○です。
学びのつながり (既習・他教科・日常とのつながり)		○○の学びが使えそうです。 ○○の学習とつながっていると思いました。
人とのつながり		友達と○○に進んで取り組みました。

ふりかえりのしてん(1・2・3年生)

きいたこと (先生や友達の話)		○○さんが△△だとはなしていません
わかったこと むずかしかったこと		<p>～がわかりました。</p> <p>～がわかりませんでした。</p> <p>～ができました。</p> <p>～ができませんでした。</p>
見通し		つぎは、○○をします。
学びのつながり (範囲: 他教科・日常生活とのつながり)		○○のべんきょうとてているとおもいました。
人とのつながり		ともだちときょうりょくして○○できました。

振り返りの視点

発表する際の話形や振り返りの視点を全クラスに提示することで児童が自分の思いを表現しやすくなるようにする。

発表の話形

話し方・聞き方 名人になろう

まとめ

○「児童が主体的に学ぶICTを活用した授業づくり」という視点において、「単元全体を見通して、本単元及び本時で身に付ける資質・能力を明確にした授業づくり」については、研究授業を中心に研究を進める中で、児童の実態や課題を的確に捉え、その課題克服に向けた単元構想を作成し、構想案の工夫を行うことで、教師が児童に「こういう力を身に付けさせたい」という思いをしっかりともって授業に臨むようにしてきた。

○「教材を介して教師と児童、児童同士が向かい合い、共に教材に挑み学び合う授業づくり」に関しては、“こやし”の授業スタイルの中でICTの効果的な活用をそれぞれの場面で模索しながら教師が互いに学び合い、学んだツールを使って有効な活用法を検証してきた。今後、さらに工夫を重ね、児童が主体的に課題に向き合って活動できるような授業づくりができるようにしていきたい。

成果と課題

児童が主体的に学ぶICTを活用した授業づくり

- ICTを活用し、みんなの考えを共有できることで、自分とは違う考え方を得ることができたり、新しい考え方から自分の考えを広げたりすることができた。
- 授業中だけでなく家庭に帰ってからも、その日の学習内容を振り返ることができた。家庭学習の中で、自分の考えを再考し、深めることができた。
- 指導者が、児童に考えてほしい内容を事前に提示することで、児童は、授業に必要な資料を調べ、情報を集めるなど準備し、のぞむことができた。
- ICTを指導者が使いこなせるようになるまでに、時間がかかった。教職員のICTスキルの個人差は大きいが、だからこそ、共通実践の意味がある。それぞれがICTスキルを高めるための研修を積んだり、共通実践を行ったりしていくことで活用の幅を広げていくことができた。また、ICT授業センターにも大きく助けられている。
- 児童のICTスキルに差がある。児童が主体的に学ぶためには、各学年での系統的な計画を立て、スキルアップを積み上げていく時間の確保が必要であった。共有、まとめ方、振り返りの場面などで、児童のスキルに合わせた学び方の選択の幅を持たせることも必要である。